

優しさと笑顔に国境はない

下吉田中学校

川口 仁那

私がコロラドで過ごした九日間は一生忘れることのない宝物の時間でした。

中学校に入学した時から、中学生姉妹都市派遣事業に参加することが目標だったので、今回行かせていただいたことにとても感謝しています。行く前は、楽しみな気持ちがあったものの、緊張や不安もありました。

私が九日間で一番心に残っているのは、ホストファミリーと過ごした時間です。長い移動時間を終え、バスを降りると、ホストファミリーが「NINA」と書いてあるボードを持って私たちを迎えてくれました。会った瞬間から笑顔でたくさん話しかけてくれて、不安や緊張もすべてなくなりました。お家にお邪魔してから、「疲れていない？」と気遣ってくれたり、ホストファミリーのハンナちゃんとトラビス君がお家の紹介をしてくれたり温かく迎えてくれました。また、食事の時間には、英語があまり話せない私にもゆっくり質問をしてくれたり、インターネットで翻訳してくれたりして、ホストファミリーの会話にも参加できました。その中でジョークを言い合ったり、日本のことを聞いてくれたり、ホストファミリーとの時間は本当に楽しかったです。二日目は、ショッピングに連れて行ってもらいました。アメリカの商品は日本と違いサイズが大きくて驚きました。見るもの全てが新鮮で何でも欲しくなりました。そして、アメリカならではの雰囲気も感じることができました。レジでお会計をすると、必ず店員さんが「調子はどう？」や「素敵な1日を過ごしてね。」など声をかけてくれました。日本にはあまりない文化なのでとても嬉しかったです。異なる国の私でも、笑顔で話せば心が通じる、素晴らしいことを学ばせてもらいました。

その日の昼食にハンバーガーを食べました。アメリカに行ったら、ハンバーガーを食べてみたいとずっと思っていたので嬉しかったです。日本とは違い、とても大きいサイズで驚きました。お肉が厚くとってもジューシーで美味しかったです。

そして、ホストファミリーとの思い出はさらにたくさんあります。映画を観たり、外で遊んだり、ゲームをしたりしました。8歳のハンナちゃんと5歳のトラビス君とは、いろいろな話をしたり、一緒に遊んだり本当の姉弟のように仲良くなりました。一緒にゲームをして熱く盛り上がったのは本当に嬉しかったです。また、ベネットさんご夫妻もいつも私を気遣ってくれたり、私が食べたいもの、行きたい場所の要望に応じてくれたり、本当にお世話になりました。優しく温かいホストファミリーとの時間はあっという間に過ぎてしまいました。

お別れの日になってしまいました。朝食を一緒に食べていると、ハンナちゃんがお手紙と手作りの人形をくれました。お手紙には、「これからもずっと友達だよ。大好きだよ。」と書いてありました。本当に嬉しくてたまりませんでした。言葉が通じなくても、心は通じているんだなと思いました。また、ベネットさんご夫妻にもお手紙をいただき感謝の気持ちでい

っばいになりました。私も前日の夜に書いた手紙をホストファミリー一人ひとりに渡して感謝の気持ちを伝えました。すると、ヒラリーさんが涙を流して、「またおいで。」と言ってくれました。最初は、アメリカと日本の生活の違いに少し不安も抱いていましたが、そんなことは関係ありませんでした。想像していたとおり、アメリカ人は親切で気さくで良い人達ばかりです。お互いに、思いやる気持ちや笑顔を忘れなければ、言葉が通じなくても、心は十分に通じます。私はそれを九日間で強く感じました。これからは、コロラドでの貴重な経験を活かして国も言語も関係なく、多くの人との交流を深めたいです。そして、今回コロラドに行かせてくれた家族、地域の方々、また現地でお世話になったホストファミリーやコロラドの方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生に活かしていきたいです。